

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：32516

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02895

研究課題名(和文) 英語による学位プログラムにおける日本語教育の現状と日本で学ぶ意義についての研究

研究課題名(英文) Research on Japanese Language Education in English-taught Degree Programs in Japan

研究代表者

柳沢 美和子 (Yanagisawa, Miwako)

東京基督教大学・神学部・准教授

研究者番号：10327223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000 円

研究成果の概要(和文)：2019年度は、スーパーグローバル大学の英語学士課程の日本語教育プログラムについて、公開されている資料からデータを収集、日本語教育の拡充、多角化が進みつつある現状を大学の紀要で報告。2020年度は類型化を試み上記のプログラムを6つの範疇に分類、必修が6割と最多であることを『留学交流』(2021)に掲載。2021年度は新設のプログラムを加え再調査を行い、各プログラムのゴールと達成度について担当の教職員にインタビューを実施。学修に次いで日本での現実に対応するゴールが全体の4割を占め、全体として8割のプログラムで概ね達成できているという調査結果は留学生教育学会で発表、最終分析を大学の紀要に投稿予定。

研究成果の学術的意義や社会的意義

英語プログラムは類型化を通して分析が行われて来たが、そこで提供されている日本語教育については先行研究がなく、全容が掴めていないという現状があった。本研究はその現状を鑑み、スーパーグローバル大学の英語学士課程における日本語教育プログラムの実態を調査、類型化を試み、全体像を提示した。またゴールと達成度について担当の教職員に実施したインタビュー調査では、日本の場合、英語学士課程であっても必修が最多であり、学修に次いで就職・日常生活と言った日本の現状に対応するゴールが多く設定され、全体として設定されたゴールが概ね達成されているという実態が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research examined Japanese language curricula in English-based undergraduate programs at Top Global Universities. In 2019, the researcher examined the above JSL (Japanese as a Second Language) curricula from the data open to the public such as program websites and found that Japanese language education has been expanded and diversified. In 2020 and 2021, the researcher categorized these JSL curricula into six groups and found that Japanese language education is a part of graduation requirements in 60% of the programs, while 30% of the programs offer it among their electives. Interviews were conducted with faculty or staff in order to inquire about goals of the curricula and achievement of those goals. Forty percent of the goals aim to help students adjust to everyday life and to be prepared for future employment in Japan. Eighty percent of the programs reported that their goals have been mostly/somewhat achieved on a 5-point scale.

研究分野：日本語教育

キーワード：高等教育の国際化 日本語教育 英語学士プログラム スーパーグローバル大学 類型化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1．研究開始当初の背景

「留学生 30 万人計画」(2008 年)の支援事業の一つである「グローバル 30」(2009 年)では、英語のみで卒業できるコースの開設が応募の条件とされ、英語による学位プログラム(以下、英語プログラム)拡大の契機となった。科研費に応募した 2018 年当時、英語プログラムにおいては類型化を通してその現状と課題について分析が行われていたが、そこで提供されている日本語教育については先行研究がなく全容が掴めていない、という現状があった。この現状を鑑み、英語プログラムにおける日本語教育の全体像を把握することを目的に、2019 年度より調査を進めた。

2．研究の目的

「30 万人計画」が完了する 2020 年を目前に、いまだ英語による留学生受入れプログラムで提供されている日本語教育の全容が明らかにされていない現状を鑑み、英語学士課程における日本語教育の実態を調査・分析、更にそれぞれのプログラムが日本で学ぶ意義をどのように打ち出しているか担当の教職員にインタビュー調査を行い、英語プログラムにおける日本語教育の全体像、課題と可能性、また国際化政策への新たな示唆を提示することを目的とした。

3．研究の方法

前述のように英語プログラムで提供されている日本語教育については全体像を把握する先行研究がなく、現状を把握するため、スーパーグローバル大学の英語学士課程を調査対象とし、そこで提供されている日本語教育プログラムについて調査を進めた。スーパーグローバル大学を調査対象とした理由は、全国から世界レベルの教育研究を行うタイプ A (「トップ型」)13 校と日本社会のグローバル化を牽引するタイプ B (「グローバル化牽引型」)24 校、計 37 校が採択され、文系、理系、文理融合と一つに偏っていないこと、グローバル 30(G30)13 校のうち 12 校がトップ型・グローバル化牽引型いずれかに再び採択され、継続した取り組みを行っていること、また「日本語教育の充実」が「スーパーグローバル大学創成支援事業」の国際化関連の達成目標に含まれていることによる。

初年度は各大学から日本学術振興会に提出された構想調書、大学のウェブサイトなど一般に公開されている資料からデータを収集し、特徴を分析した。2020 年度には類型化を試み、2021 年度は前回 2020 年の調査以降新設されたプログラムを加えて再調査を行い、2021 年 7 月の時点で確認された 52 の英語学士課程を前年度提示した類型化により 6 つの範疇に分類、また各プログラムの日本語教育のゴールと達成度について、コロナ禍の中、担当の教職員に主にメールを介してインタビューを実施した。

4．研究成果

スーパーグローバル大学の英語学士課程の日本語教育プログラムについて、2019 年度はウェブサイトなど一般に公開されている資料からデータを収集、特徴を分析した。その結果、英語プログラムの導入により、従来求められて来た正規課程で学べる日本語能力のある留学生のみなら

ず、未習レベルの留学生にも対応することによって、日本語教育の体系化、また日本での進学や就職を見据えて、日本語教育の拡充、多角化が進みつつある現状が見えて来た。この調査結果は、2020 年 3 月所属先の大学の紀要に掲載された。

2020 年度はスーパーグローバル大学から日本学術振興会に提出された構想調書などやはり一般に公開されている資料からデータを収集、類型化を試み、スーパーグローバル大学の英語学士課程で実施されている日本語教育プログラムは概ね次のように分類された。

- (1) 語学科目としての日本語が設置されていない。
- (2) 原則履修しなくても良い（履修しないのが基本の選択肢である）。
- (3) 選択科目もしくは外国語の 1 つとして選択、卒業所要単位に含めることができる。
- (4) 必修科目である。
- (5) 高年次のバイリンガル/日英二言語教育の一環である(必修)。
- (6) 高年次の日本語を教授言語とするプログラムの一環である(必修)。

この調査結果は、2021 年 1 月日本学生支援機構刊行の『留学交流』に掲載された。

2021 年度は、前回 2020 年の調査以降新設されたプログラムを加えて再調査を行い、2021 年 7 月の時点で確認された 52 の英語学士課程を前稿（2021）で提示した類型化により 6 つの範疇に分類、プログラム内容についても前回以降の改変を踏まえて再調査した結果、日本語は約 3 割のプログラムで選択、ほぼ 6 割で必修、必修の約 7 割で学習者の自立が可能な中級レベルまでの履修が可能となっていた。

また各プログラムの日本語教育のゴールと達成度について、コロナ禍の中、担当の教職員に主にメールを介してインタビューを実施した。日常生活と就職という日本での現実に対応するゴールが全体の 4 割、他方意図的にゴールを定めていないプログラムも全体の 3 割近くを占めていた。一律に一定レベルの習得を求めず、個々に合った形で学習が可能となると言うのが主な理由である。

達成度については、それぞれのプログラムに 5 段階の自己評価を依頼した。「ほぼ達成できている」、次いで「まあまあ達成できている」が 8 割を占め、一方「ほぼ」達成できていても改善の余地がある理由として、就職に必要なレベルに達するための時間数の不足が挙げられた。調査結果は 2021 年 8 月に留学生教育学会の年次大会で発表、最終の分析を加筆して本務校の紀要に投稿予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 柳沢美和子	4. 巻 118
2. 論文標題 日本語教育を通じたグローバル人材育成 -スーパーグローバル大学の英語学士プログラムにおける日本語教育の現状-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 留学交流	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柳沢 美和子	4. 巻 30
2. 論文標題 日本の大学の国際化と、英語による学位プログラムにおける日本語教育の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリストと世界	6. 最初と最後の頁 151-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 柳沢美和子
2. 発表標題 SGU英語学士課程における日本語教育の現状
3. 学会等名 留学生教育学会 第26回年次大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------